

宮城学院女子大学  
**Partir**  
[パルティール]



あなたのこれからに贈りたい  
Live Letter from MG



- 01 誌上ゼミ  
日頃の練習の成果を舞台上で表現  
音楽科声楽専攻のステージ発表会
- 05 学問へのいざない  
「楽しく表現してもらおう方法」を学ぶ  
「相手に寄り添う栄養指導」を学ぶ
- 07 特集  
第2回 宮城学院  
クリスマスマーケットを振り返って
- 09 ACTION  
MG生たちが多方面で活躍中!
- 11 My way MG way  
卒業生の仕事場訪問
- 13 サークル紹介
- 14 CAMPUS NEWS
- 15 MGにこの人あり  
「レナ・ブーフル」

「Partir (パルティール)」はフランス語で「出発する」  
新しい時代に飛び立とうとする女性たちを支え、励ますために、  
宮城学院女子大学から発信するコミュニケーション情報誌です。

# 日頃の練習の成果を舞台上で表現 音楽科声楽専攻のステージ発表会

「歌うこと」と「演じること」の難しさと楽しさを知る機会に

歌う難しさとは違う  
「演じること」の難しさ

**井坂** 後期の発表会では『ヨジ・ファン・トゥツテ』『ボツペアの戴冠』『フィガロの結婚』の3つを上演しました。今回は皆さんからのリクエストに応じて決めた演目もあ



井坂 恵 准教授

りましたが、いかがでしたか？

**佐藤（初）** 私は以前から『フィガロの結婚』の「恋とはどんなものかしら」のシーンがやりたくて、今回採用していただきました。これまでアリアは授業で歌っていましたが、会話にあたる「レチタティーヴォ」の部分はどうなっているか、ずっと興味があったんです。

**井坂** 『フィガロの結婚』はいくつかのアリアをつなぐと物語としてコンパクトになるんですよ。レチタティーヴォは会話しながら歌うので、アリア以上に難しかったですよ。  
**佐藤（初）** はい。テクニク的なことももちろんなんですが、今回は登場人物3人



音楽科

井坂 恵 准教授

[3・4年生 音楽科声楽専攻のみなさん]

佐藤 初音さん 小野 結夢さん  
庄子 美弥さん 佐藤 悠子さん  
鹿内 沙彩さん 千葉 菜々美さん



が絡むシーンだったので、互いの言葉に对し湧き上がる感情なども意識させられました。ひとりで歌うときにはなかった「演じること」の難しさを、あらためて感じましたね。

**小野** 「演じること」の難しさ、私もひしひしと感じました。あらかじめ知っているストーリーでも、あくまで舞台上ではそのセリフを今、はじめて聞いた」表情で演じなくてはいけない。練習していると慣れて鈍化してしまうけど、毎回新しい気持ちでリアクションすることを心がけていました。

**庄子** 私は演技に夢中になって、客席を意識するのを忘れてしまいました。するとお客さんのところまで声がしつかりと届かなかつたりして……。歌う、演じる、客席を意識する、をバランスよく維持するのが大変でしたね。

**井坂** 庄子さんは、悠子さんとふたりで

『ポツアの戴冠』のワンシーンを演じたんですよね。

**庄子** はい。今回のステージでは、いつもより役に没入してしまつて。普段の練習でしていなかったリアクションや表情が思わず出てきて、そこに面白さも感じました。

「……舞台には魔物がいるな」と(笑)。

**佐藤(悠)** 『ポツアの戴冠』は、ほかの演目と比べて資料が少なく、いつもはDVDやWEBを参考にしながら組み立てるんですが、逆に参考にするものがなかったので、庄子さんとふたりで演出を工夫しましたのも楽しかったですね。お互いに惹かれ合う若い男女の距離がだんだんと近づくシーンで、最近話題の「あぐい」なんかを入れてみたり(笑)。

**千葉** 演出では、私もちよつと楽しみました。『シンファン・トゥツテ』では、デスビーナという小間使いの役だったんですが、ふたりの姉妹との絡みのシーンは「私がふたりの身支



庄子 美弥さん



小野 結夢さん



佐藤 初音さん

度を整えていることにしよう」と決め、自分でおそろいの髪飾りを用意したり。

**鹿内** 舞台小物といえば今回、私もデスビーナとしてふたりの姉妹にお茶を淹れる場面があつたんですが、カップやポット、ソーサーは初音さんが用意した陶食器を使つたんです。いつものプラスチックのように乱暴には扱えないから、仕草なども自然と上品になりました。お茶を注ぐシーンでも、ポットに水を入れてカップへきちんと注いで……。普段はフリをすることも多いんですが。

**井坂** 私の時代は衣装なんてひたすら自分で作つていましたね。今はネットで見つけられるから、いい時代だと思います。でも前期の発表会では、みんな工夫してセットを作りましたよね。『ヘンゼルとグレーテル』のお菓子の家とか。

**小野** 模造紙にお菓子の家を描いたんですよね。「シンジャーマン」の垣根をダンボー





ルで作ったり。今回のセットも特に何か買ったわけではなく、学校にあるもので工夫しましたよね。

**佐藤(初)** ホールのロビーにあったソファも拝借しましたね(笑)。普通のパイプ椅子では物足りなかったので……。ちよつとだけあらたまった雰囲気が出せたかな、と思つています。

### 進行も含め自分たちで 一から創りあげる舞台

**井坂** 特に3年生は苦労したところも多かったでしょう？

**鹿内** はい。先輩方が「演じる難しさ」について話していましたが、私はそれ以前に「動きながら歌うこと」が難しくて。いつもと違う重心で発声するので、力の置き具合に迷つたり。

**千葉** そう。「走つて歌うこと」つてめつたにないので「走つて、止まつて、音程を取る」



鹿内 沙彩さん



千葉 菜々美さん



佐藤 悠子さん

のが大変で。きちんと発声しなければと注意すると、今度は役に合った声が出なかつたりするので、そこはもつと練習が必要だと感じました。オペラでは周りに人がいて、いろいろな人の立ち位置が連動しながら動いていく。自分が正面を向いているとき、他の役柄の人が後ろでどう動いているかを把握するのも大変でした。

**井坂** 逆に、うまくいったところはどこだった？

**佐藤(悠)** 私はミスが多くなつてしまいました……。『フィガロの結婚』の入りが早過ぎたり、ケルビーノに衣装を裏返しに着せてしまつたり。『ボツペアの戴冠』は比較的うまくいったと思うんですが。

**井坂** 練習ではすつとうまくいっていたのにね。突然本番で失敗してしまふことであるんです。ほんと、舞台には魔物がいるのよ。今回は小道具を使うシーンが多かったから、「今、何を持つてこないといけない」

つていうのをチェックするのも大変でしたね。全部自分たちでやっていると。

**小野** チョクといえば、『ゴジ・ファン・トゥツテ』のデスピーナはダブルキャスト、『フィガロの結婚』のスザンナはトリプルキャストでしたが、衣装は1着だったので転換の度に「早着替え」が発生していったんです。でも「誰が誰に渡す」ってリハーサルをしっかりとつていたおかげで、スムーズにいきましたね。

**千葉** デスピーナは着替えもそうですが、動きもトリッキーで不安だったんです。舞台の両端にいる姉妹の髪に花をつけた後、鏡を奪いとつて自分の姿を映すというシーンがあつて。いつもタイミングが間に合わず、鏡が受けとれなかつたりしていましたが、なんと本番が二番スムーズで、自分でもびつくりしちゃいました。

**佐藤(初)** 私はそんなに動く役じゃなかつたので、今回は意外と冷静でした。実は声のコンディションがあまりよくなかつた





んですが、一つひとつ感情を持ちながらで  
きたのでよかったかな、と思います。

**庄子** 声のコンディションは常に気になる  
部分ですよ。みんな、どうやって保つてい  
ますか？

**佐藤(初)** あまり考えすぎるとゴチャゴ  
チャしてしまうので「うまくいった日」をト  
レースするよう意識しています。「いい」と  
言われたときの歌い方や、その日のコンデ  
ィションの作り方、発声準備をどのタイミ  
ングでどのぐらいうったかななどを思い出し  
ながら。

**小野** あとはうがい、手洗いをしっかりや  
ること。風邪は大敵ですもんね。

**共に音楽に親しみ、楽しむ  
友だちを大勢作って欲しい**

**井坂** 4年生は実質、最後の発表会で  
した。今後の展望について一人ひとり聞い  
てみましょうか。

**鹿内** 今3年生で、先輩方にリードして  
もらっているけれど、今度は私たちが下級  
生をリードする立場になるんですね。これ  
まで教えていただいたことや経験を活か  
して、新3年生を引っ張っていきけるよう  
になりたいです。

**千葉** 私もう1年挑戦する機会があ  
るので、新しい役や表現とかにトライし  
たいですね。自分の伝えたいことを、もつと  
客さんに伝えられるよう、豊かな表現が  
できるようにになりたいです。

**庄子** 私は本番でいつも「失敗する」つて  
弱気になりがちなんです。その一方で演  
技はやればやるほど楽しいって感じる。だ  
からもつと自由に歌えるようになりたいで  
す。少しでも実現できるよう、歌に限らず  
いろんなことに挑戦していきたいですね。

**佐藤(悠)** オペラの授業では、歌唱以外  
にも演技や感情の動きなどを理解しな  
がら学べたので有意義でした。今後ひと



りでアリアを歌うときも、この授業で学ん  
だことを活かしていきたいです。

**小野** 歌うときの感情の作り方をもつと  
意識して深く突き詰めたいですね。特に  
今回は表情がコロコロ変わる曲を演じたの  
で。ただ言葉が発するのではなく、まず感  
情を作り、自然とその歌に見合った声が

出てくるようにしたいです。

**佐藤(初)** 私、実は卒業してもオペラを  
やりたいと思っています。今はまだ2、  
3曲でアップアップしてしまうけど、今後は  
原語でオペラ本歌えるようになりたいし、  
声も最後までもたせられるようになりた  
い。本気でオペラの歌い手をめざします。

**先生** 私はかつて『ヘンゼルとグレーテル』を  
演じたことで「気にオペラにハマったん  
です。みんなにも、さまざまな経験を通じて  
意識が変わる体験をして欲しいし、音楽  
ファン・オペラファンを周囲にどんどん増や  
して欲しい。もちろん歌手をめざすのは大  
歓迎だし、もしそうでなくても、舞台を  
作る人や、または一人のファンとしてでも  
いい。ずつと音楽と友だちでいて欲しいと思  
います。そして音楽を共に楽しむ仲間を  
大勢作って欲しい。卒業したら「先生・  
生徒」ではなく、みんな「音楽を通した仲  
間」。心から応援しています。





## 「楽しく表現してもらう方法」を学ぶ

発達臨床学科 石川 隆 准教授

人目にさらされることで  
表現は洗練されていく

主に、保育者や小学校教諭をめざす学生に向け「図画工作を指導するためスキル」や「自分自身の造形表現スキル」について指導しています。

学生たちを教えていて感じるのは、「絵に自信がない」子が多いことですね。以前と比べ学校での美術の授業時間が減っていることもあり、みんな描くことに慣れていない。またそれを褒められる機会も少ない。そのせいか、みんな恥ずかしさが先に立ってしまうようです。でも私の思う「いい絵」とは、「上手い絵」ではなく「生きている絵」。たとえデッサンや描線などが拙くても、対象をゆつたりと捉え、大きくのびやかに描写すれば、誰でも魅力のある絵が描けるんです。

私の授業では学生が描いた絵をすべて掲

示し、あえて人目に「さらし」ます。「これだから美術は嫌」と顔をしかめる学生も少なくないですが(笑)、そうやって人の目に触れることで、不思議と作品が垢抜けてくるんです。意識的に手を動かす機会を多く設け、人目にさらす。これを続けることで、自然に表現スキルもアップしていきます。

子どもの願いに共感し  
後押しをすることが大事

次に「指導者」として小さな子どもに造形表現をさせる際、大切なことは「褒めて伸ばす」ことです。でも、自分自身が美術表現で褒められた体験が少ないと、褒める言葉も乏しくなってしまうがちです。まず、子どもが「何を表現したのか」を理解し、共感する。そして子どもの願いを汲みとった上で「こうすればさらに良くなる」という、後押しをする。このように表現に応じてくれる他者との



かわりを通して「表現は楽しい」と自然に感じてもらうことが大切です。

「恥ずかしい」という気持ちは、美術表現において一番の妨げになります。自分の内面から出てくるものを素直に表現し、人とのちがいを見せ合うことが表現のおもしろいところであり、楽しいところでもあります。まずはできるだけたくさん描いて「自分らしさ」は「コレ」というポイントを見つけましょう。そしてそれを、友だち同士で比べてみてください。きっと造形表現の時間が楽しくなるはずです。

### Profile

栃木県那須烏山市(旧烏山町)出身。筑波大学大学院修士課程芸術研究科美術専攻修了。修士(芸術学)。1999年より宮城学院女子短期大学保育科助教授。2000年より宮城学院女子大学発達臨床学科助教授→准教授(現在)。一般社団法人二紀会会員。○信条「のびやかさ」

### 私のおすすめ本

#### あおくとときいろちゃん

レオ=レオニ・作・絵、藤田 圭雄・訳

小さい頃におそらく誰もが一度は手にとった絵本ではないでしょうか。実はこれ、「色の法則」を教えるのにぴったりの教材でもあるんです。「色を学ぶ」という観点であらためて読んでみると、きっと新たな発見があるかもしれません。



### これが学びのツボ!

どんなモチーフをどう表現するか。モチーフのどこに「面白み」を感じるか。描くポイントクリアにする視点も大切です。そうした目を養うために、興味関心の幅を広げることも重要。ぜひ色々なものをじっくり観察してみてください。



# 「相手に寄り添う栄養指導」を学ぶ

食品栄養学科 丹野 久美子 准教授

**人を教え、人の悩みを聞くこと  
求め続けて、今がある**

大学教員になる前は、東北大学の保健管理センターで「栄養士」として、主に肥満学生を対象にカウンセリングを中心とした栄養指導を行っていました。学生の食生活の状況を聴き取る中で、どうしてそのような食行動をとるのか、ということをお自身が理解し、寄り添う姿勢を見せる必要のある仕事です。

一方、学生の頃から「スポーツ栄養」というものにも興味があったのですが、漕艇部の合宿所に食事指導に行ったことがきっかけで再びその思いを強くし、知り合いに、仙台大学でスポーツ栄養を教えている先生を紹介してもらうことになりました。これが転機となり、仙台大学で栄養学部を立ち上げるのに合わせて転職。不安は大きく、悩むところもありましたが、

かねてから「教員になりたい」と思っていたこともあり、自分の求める道を突き進む結果になりました。

**失敗は成功の母  
相手に寄り添う大切さを実感**

仙台大学で学んだことのひとつは、どれだけ自分がスポーツ選手の立場に立つて物事を考えられるか、という点です。これは東北大学でのカウンセリングを通しても感じていたことですが、スポーツの経験、トレーニングの辛さが分からなければ、いづいどんなものを食べるができるか、ということを適切に判断できません。宮城学院の学生には、その点を特に重視して教えています。

食生活はプライバシーに関わるもので、信頼関係がないと聞き出すことが難しい問題です。しかし身体を壊してしまう方の大半が、栄養やバランスの良い食事に興

味を持ちません。そのような方々に寄り添い、どうしたらこちらを向いて話してもらえるか。栄養カウンセリングの最初の一歩として、これは非常に重要です。

管理栄養士は人の命を預かる仕事でもあります。失敗は許されません。そのため、学生には学生のうちに、たくさん「失敗」を重ねてもらいたいと考えています。失敗が経験となり、これを繰り返すことで、何が良くて何が悪いのか、ということが自ずと蓄積され、成功につながっていくのだと思います。



Profile

宮城県仙台市出身。東北大学大学院情報科学研究科博士後期課程修了。博士（情報科学）。東北大学保健管理センター栄養士、仙台大学体育学部助手を経て、2013年より現職。管理栄養士、健康運動指導士。○信条「失敗は成功の母」

私のおすすめ本

**プレゼンテーション・パターン—創造を誘発する表現のヒント—**  
井庭崇、井庭研究室著

『プレゼンテーション・パターン—創造を誘発する表現のヒント—』「プレゼンテーションとは単なる伝達ではなく創造の誘発である」の言葉が印象的な、「人に伝える」ということがどんなものであるかがまとめられた一冊。パターンごとに紹介されているので分かりやすく、指導する立場にある栄養士はもちろん、社会人や研究者も重宝します。



これが学びのツボ！

栄養士は様々な情報を患者さんのために伝えようと思いますが、それが本当に必要とされている情報であるとは限りません。最も伝えたいメッセージが何なのかをはっきりさせ、言葉や図表などを使って伝えていく姿勢が、栄養士には求められます。





音楽部門 担当

渡邊 さやさん  
(音楽科 3年)

宮城学院の音楽に  
親んでもらえた喜び

私の担当は、当日開催された3つのコンサートのスタッフ業務の統括。具体的には、参加団体の代表者との業務連絡、プログラム作成、スタッフの役割や係の設定などを行いました。

クリスマスマーケットでのコンサート開催は初の試みだったこともあり、すべてが手探り状態で、本当に苦労の連続でした。それでも同じ音楽科の同級生がいてくれたおかげで、役割分担ができましたし、たくさんの方々に“宮城学院の音楽”に親んでもらえたことが、一番の喜びです。



キッズワーク部門 担当

佐藤 美秋さん  
(人間文化学科 3年)

とても印象的だった  
子どもたちの笑顔

どんぐりや松ぼっくりなど、自然の素材を使ってクリスマスカードを作成するブースで、子どもたちの作業補助やワークショップ講師のお手伝いを担当。また事前にキャンパス内を歩いて、材料集めも行いました。

イベントの中で最も印象に残っているのは、作業をしている時の子どもたちの笑顔。彼らの表情を見ている私たちも笑顔になりましたし、完成した作品を見せに来てくれる姿を見て「このイベントを、心から楽しんでくれているんだなあ」と感じることができました。

## マーケットを振り返って



Miyagigakuin  
Christmas  
Market  
2015



ルガンなど、賑やかなマルシェとはひと味違った“厳かさ”の演出がミッションでした。

自分が担当した小礼拝堂でのインスタレーションは、普段意識していない自分に出会えるような体験をしようという内容。来場者の皆さんの幸せそうな顔が忘れられません。準備期間はとても忙しくて、時間はあっという間に過ぎていきました。当日も準備期間もとても楽しかったです。



展示・カフェ部門 担当

栗原 宏奈さん  
(国際文化学科 4年)

直接伝わってきた  
来場者の反応がうれしい

私の担当は、出店者の方とのカフェの運営。甘味やドリンクの提供、ランチボックスやオリジナルクッキーの販売などを行いました。また『贈り物をするってどういうこと?』をテーマにした「てつがくカフェ」で、学科の先生のお手伝いもしました。

印象的だったのは、来場者の方々が開始時間前から行列をなしていたこと、そして販売していたランチボックスが、わずか30分で完売したこと。みなさんがこのイベントを心待ちにしてくれていたことが、ダイレクトに伝わってきました。



総務部門 担当

秋山 日奈さん  
(国際文化学科 3年)

メンバー間の協力で得た  
ホスト役としての充実感

先生や昨年の学生ボランティアから、クリスマスマーケットの魅力が聞かされていて「そんなに楽しいことなら、参加しないわけにはいかない!」と思い、参加を決めました。

私は総務部門でホームページ作成や管理、会場の準備にかかわり、当日は各種情報の管理と会場案内図の作成・設置を行いました。苦労したことも多々ありましたが、メンバー同士で協力しながら、ホスト役として来場者の方々をおもてなすことができました。当日の充実感は、とても大きかったですね。





マルシェ部門 担当

安部 志保さん  
(国際文化学科 3年)

来場者からの言葉を胸に  
来年はもっと良いものに!

昨年も参加してすごく充実した時間を過ごせたことが、参加のきっかけでした。当日は、店頭での商品販売を担当。出店する方々に事前にお会いしてお話を聞いたり、店頭で販売する商品を拝見したりして、商品知識などを身につけました。

一番うれしかったのは、来場者の方々から「来年も期待しているね!」と声をかけられたこと。もちろん来年もスタッフとして参加するつもりです。今年の反省点を踏まえて、もっともつと魅力的なイベントにしたいですね。



ワークショップ部門 担当

伊藤 瑞穂さん  
(人間文化学科 2年)

たくさんの来場者や  
OGとの出会いに感謝

「大きな充実感と喜び」。昨年経験したこの感覚が忘れられず、今年も参加しました。担当したワークショップでは、講師を務めた宮城学院OGの方々と一緒に、キャンドル作りやフラワーアレンジメントのサポートを行いました。

来場者の方々だけでなく、出店された方々にも楽しんでいただけたことは、本当にうれしいことでしたし、このイベントを通じてたくさんの来場者やOGの方々との出会い、関わられたことに、心から感謝しています。



レクチャー部門 担当

小野 恵理香さん  
(人間文化学科 2年)

担当部署の講演が  
アンケートで高評価!

ゼミの先生に誘われたことと文化に関連する「レクチャー部門」に興味があったことが理由でスタッフになりました。担当業務は会場設営や機材準備、PCの操作など、講演者のサポート役、広報用チラシの作成でした。

うれしかったのは、他学科の先生方や学生と触れ合えたこと。また、たくさんの人の意見やアイデアを聞くことができたことは、自分にとって本当に貴重でした。そして来場者アンケートで、レクチャー部門の講演が好評だったこと。目に見える評価をしてもらえて、本当にうれしかったですね!



フード部門 担当

伊藤 愛さん  
(食品栄養学科 3年)

お菓子づくり体験で  
見事 目標をクリア!

「クリスマスクッキング」として、ドイツのクリスマス定番菓子であるシュトーレンづくりを担当。参加者の方々には、生地づくりから体験していただきました。今回初の試みだったので、シュトーレンの大きさから価格設定にいたるまで、何度も試作と検討を繰り返しました。

いざ当日、お客様は本当に来てくれるのだろうか?という気持ちもありましたが、フタを開けてみればとても好評で、事前に立てていた「参加者 100名」という目標もクリアできました。

## 第2回

# 宮城学院クリスマスマ

2014年から始まったクリスマスマーケット。昨年12月に開催された第2回は、前年のほぼ倍となる約1,600人が来場し、素敵なひとときを過ごしました。当日、来場者をおもてなししたのは、総勢152人の学生スタッフたち。彼女たちに、今回のクリスマスマーケットを振り返ってもらいました。



礼拝・文化部門 担当

海野 里穂さん  
(国際文化学科 3年)

来場者の幸せそうな顔が  
忘れられません!

礼拝・文化部門では、開・閉会式や小礼拝堂でのインスタレーション、おみくじ、手回しオ

# Action

## MG生たちが多方面で活躍中!

学業ではもちろん、  
学外でのさまざまな活動でも  
活躍中のMG生たち。  
ここでは、多方面で活躍している  
学生たちを紹介します。



「2016ミス・ユニバース・ジャパン宮城大会」で  
食品栄養学科の学生がグランプリを獲得!

昨年12月に開催された2016ミス・ユニバース・ジャパン宮城大会で、食品栄養学科1年の石川優希さんが、見事グランプリに輝きました。

「昔からモデルに興味はあったのですが、元々あがり症で（笑）人前に出ることがあまり得意ではありませんでした」と石川さん。「それでもウォーキングやメイク、話し方など、さまざまなレッスンを通して、自分に自信が持てるようになりました」と自分自身の変化も感じたそうです。

今後については「一番の目標は管理栄養士になることです。ほかにも学校で学んだ栄養面の知識と、ミス・ユニバースでの活動を通して得た美容面での知識を組み合わせたいさまざまな活動もしてみたいです!」と話してくれました。





## 「第6回東北地域韓国語弁論大会」で 国際文化学科の学生が金賞を受賞！

昨年11月に開催された第6回東北地域韓国語弁論大会で、国際文化学科3年の小野寺咲季さんが金賞（第2位）に輝きました。



高校時代にみた  
韓流ドラマやK  
POPの影響で、  
韓国語に興味を持った小野寺さん。「セ

リフや歌詞の意味を理解できた時が、すごくうれしくて。そこからハマっていき  
ました」と話してくれました。また今  
回の受賞は自信になったそうですが「優  
勝者とくらべると、まだまだ力の差を  
感じました。もっと流暢に話せるよう努  
力したいです」と向上心は尽きません。  
「将来は公務員をめざしているのです  
が、国際関連や観光関係の部署に配属  
されて、韓国語を仕事に活かしたら最  
高ですね!」と将来の目標を語ってく  
れました。



## 「2015紀の国わかやま国体」弓道競技で 生活文化デザイン学科の学生が4位入賞！

ていきました」と大会を振り返ります。  
さらに「メダルまでもう歩だったので、  
来年も（国体に）出場して、今年以上の  
成績を残したいです」とリベンジを誓っ  
ていました。

一方、大学の弓道部では部長を務める打  
矢さん。「現在、東北地区3部リーグ所属  
なのですが、昨年は2部との入替戦で負け  
てしまいました。今年こそは2部昇格が  
目標です!」と力強く語ってくれました。



昨年9月、和歌山県で開催された  
2015紀の国わかやま国体弓道競技  
（遠的）で、生活文化デザイン学科2年  
の打矢陽さんが、第4位に入賞しました。  
「国体初出場だった上、弓を引く順番  
が全体でもチームでも最初だったので、  
ものすごく緊張しました。でもみんなに  
声をかけてもらって、徐々にリラックスし



性別や役職にとらわれず、  
横のつながりを大切にしたい

RICOH



[取材]  
広報室インターンスタッフ  
西城夏希 (日本文学科3年)

リコージャパン株式会社  
宮城支社長 鈴木美佳子さん





## グリークラブ<sup>※</sup> (合唱部)

- 部員数:7名
- 活動日:毎週月・水曜
- 活動場所:C406

歌うことを通じて人々と交流し  
美しい歌声を届ける!

歌うことが大好きな学生が集まったサークルが、このグリークラブです。合唱経験者はもちろん、大学入学後に始めた学生も多くいます。外部団体が主催する音楽祭や発表会などで歌を披露したり、毎年10月に開催される大学祭でステージ発表をしたり、最近では地域の音楽祭などに呼んでいただくこともあります。発表の機会が増えるのは、私たちにとって本当に嬉しいことです。今後も歌を通して、さまざまな方々と交流していきたいです。

今後は部員数を増やして  
定期的な発表会も開催したい!

他大学に比べると部員数は少ないのですが、その分メンバー同士の距離が近く、学年や学科の垣根を越えて、みんな仲良しです。それでも、メンバーがたくさんいれば魅力的なハーモニーを奏することもできるので、今後はもっと部員を増やしていきたいですね。また、ここ数年は実現できずにいるのですが、定期的な発表会も開催できたらうれしいです。



大学祭のステージ発表では、  
美しい歌声を披露!



普段の練習は「真剣に」  
そして「楽しく」!



部長  
前野 未帆さん  
(発達臨床学科2年)



コンテストのコーマ。  
英語の原稿を暗記し、  
堂々とスピーチ!



英語劇の練習前は、  
念入りに準備運動!



部長  
中野 宏佳さん  
(国際文化学科2年)

## サークル紹介 02

## ESS (英語部)<sup>※</sup>

- 部員数:8名
- 活動日:不定期
- 活動場所:学内外各所

英語で話したり、演じたり  
難しいからこそ得られる達成感が魅力!

英語で話したり、演じたりして、楽しく活動しているESS。メンバー全員が流暢に英語を話せるわけではありませんが、英語を話すことが大好きで、向上心を持って取り組んでいます。主な活動内容は「スピーチ」「ドラマ(英語劇)」「ディスカッション」で、すべてを英語で行っています。いずれも英語を駆使して行うことは簡単ではありませんが、メンバー同士で互いにアドバイスし合って、コミュニケーションを図れた時の達成感は格別です!

英語力UPで活動の幅を広げ、  
いろいろな場所で英語を披露したい!

今後の一番の目標は、部員数を増やすこと。特に「ドラマ(英語劇)」の場合は、キャストが多くなればセリフの掛け合いもできますし、迫力も違ってきますからね。もうひとつの目標は、サークルとして活動の幅を広げること。メンバー個々の英語力をアップさせて、いろいろな弁論大会に出場したり、英語劇を披露したりできたら最高ですね!

日本文学科 特別企画  
「角田光代 × 池上冬樹 特別対談」開催!



昨年12月10日、直木賞作家・角田光代さんと文芸評論家・池上冬樹さん（本学非常勤講師）による特別対談が開催されました。当日は、日本文学の学生をはじめとする本学の学生に加えて、学外からも一般来場者が数多く詰めか



け、あつという間に満席に。幅広い層から支持を集める角田さんならではの光景でした。

対談は角田さんの作品に対する思い、さらにご自身の仕事や趣味、他の作家さんとのエピソードなどファン垂涎の内容で、来場者は熱心に耳を傾けていました。終了後に行われたサイン会では、長蛇の列が、ファン一人ひとりに対して、にこやかにそして丁寧に対応していた角田さんの姿が印象的な今回の特別対談でした。

アクティブ・ラーニングに焦点を当てた研究会  
「アクティブ・ラーニングで拓く次世代の授業」開催!



かえました。会場には本学の教授や学生、さらに現在小学校教諭として活躍するOGの姿も、数多く見られました。

1月23日、「アクティブ・ラーニングで拓く次世代の授業」と題した研究会が開催されました。教育学部開設にあたり、本学では、今、問う教育の力」と題して、昨年10月から「みんなの学校ー今、そして未来ーみんなのことも園ー新制度の課題と展望」などの研究会を開催。この日で3回目をむ

第一部では「アクティブ・ラーニングとは何か?」について、板橋夏樹准教授が講演。続く第二部では、各教科でのあり方について、算数科は中込雄治教授が、生活科・総合的な学習は生野桂子教授が、理科は板橋准教授がそれぞれ講師を務め、具体的な取り組みを交えて話をしました。参加者は、真剣な表情で講師陣の話に聞き入っていました。



1000「いいね!」突破!  
大学公式facebookに「いいね!」しよう!!



宮城学院女子大学に関する情報が  
いっぱい公式 facebook. おかげ  
さまで、見事 1000「いいね!」を突破  
しました! 未登録の方は、ぜひアクセ  
スして「いいね!」してくださいね!



[www.facebook.com/mgu.ac.jp](http://www.facebook.com/mgu.ac.jp)

編集後記

パルティール21号をお届けします。年に2回の小誌ですが内容は盛り沢山です。本誌をご覧いただければ宮城学院の学生たちがいかに生き生きと輝いているか、おわかりいただけるものと思えます。今年宮城学院は創立130周年を迎えます。大学も4学部9学科の第一期生を迎えます。時代も学校もめまぐるしく変貌していきますが、にもかかわらず明治の宮城女学校時代から現在に至るまで、変わらないものは学生たちの笑顔です。(MF)



宮城女学校第3代校長のズーフル先生。1894(明治27)年から1908(明治41)年まで在職しました。

ズーフル先生の在職期間中、2万人以上の死者を出した明治三陸地震や校舎の全焼、さらにコレラ・天然痘の流行など、多くの困難に見舞われます。そんな中でもズーフル先生は、生徒たちに深い愛情を注ぎます。このほか、忙しい中で時間をみつけては学外へ出向き、たくさんの少女たちのためにさまざまな活動を行いました。

またズーフル先生は、より質の高い女学校を作るために尽力。1897(明治30)年、校地内にバイブルハウスが竣工されますが、これは宮城女学校に聖書専攻科が創設される先駆けとなりました。翌年には教科課程改正を行い、従来4年であった就学年度を5年に設定。さらに1904(明治37)年には、第一校舎も献堂されました。



①和服姿のズーフル先生(写真中央) ②校長室でのズーフル先生(写真中央) ③生徒たちとの記念撮影

## MG archives

### 宮城女学校のシンボリック存在だった「第一校舎」

1902(明治35)年に最初の校舎が全焼したことを受け、1904(明治37)年に献堂された第一校舎。設計は、当時横浜在住であったゼールが担当、建設資金はアメリカの信徒たちから寄せられた寄付金でした。完成した校舎の前に並ぶのは、左からルーシー・M・ポーウェル、ズーフル、サディー・L・ワイドナー(第5代校長)の3人。この建物は、1945(昭和20)年の仙台空襲で焼失するまで、宮城女学校のシンボリック存在でした。

